

2021 年度 第 2 回 8 月 東大本番レベル模試 地理 採点基準

■ 単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは 0 点。

■ 論述問題

- ① 「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。
- ② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

■ 共通減点基準

- ① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは 1 点減点。
- ② 下線の付け忘れは 1 問につき 1 点減点。
- ③ 指定用語不使用は，指定用語 1 つにつき 1 点減点。
(解答中のどこかで使用していればよい。
加点ポイントの脱落による減点がある場合は，それ以上の減点は不要。)
- ④ 字数オーバーは 1 点減点。

*減点しなくていい要素，その他の注意

- ① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇄スロベニア，パキスタン⇄パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。
- ② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は 0 点だが，減点はしない。
- ③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。
- ④ 文章が未完のものも減点しない。

■ 採点記号について

1. <□□□□> 加点ポイント
2. □□□□× 事実誤認あり
3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

■ 設問別加点基準

- 1) _____部分は必須キーワードであり、この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○／△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「② (①の説明として)」は、加点ポイント①を正解していなくても、加点ポイント②に該当すれば加点する。
- 4) 「 A 」が「 B 」→1点 は、「 A 」と「 B 」の両方の要素があれば1点加点する。

第1問 (20点)

設問A

(1) 2点

ア－b イ－c ウ－d エ－a

※4個正解 →2点 1～3個正解 →1点 0個正解 →0点

(2) 2点

河川が分流し、砂泥が堆積して形成される低湿地である三角州。(1行)

【加点ポイント】

- ① (地形の名称) 三角州／デルタ →1点 (※「円弧状三角州」など限定したもの →加点しない)
- ② (地形の特徴) 低湿／低平／平野が広がる／砂泥が堆積 →1点

(3) 3点

アは初夏の気温上昇による融雪水の流入が、イは夏季の湿潤な南西季節風がヒマラヤ山脈にぶつかる際の地形性降雨が理由となる。(2行)

【加点ポイント】

- ① (アについて) 融雪水／雪解け水／初夏に雪が融けるとき →1点
- ② (イについて) 地形性降雨／ヒマラヤ山脈に季節風がぶつかる →1点
- ③ (②の時期) 夏季／高日季 →1点

(4) 3点

レナ川流域を含む一帯に広がる永久凍土の融解が進み、住宅の倒壊、道路・パイプラインなどのインフラの損壊が生じている。(2行)

【加点ポイント】

- ① (河川の名称) レナ川 →1点
- ② (温暖化の影響) 永久凍土の融解 →1点 (※「凍土」では加点しない)
- ③ (②の影響) 住宅の倒壊／建築物の傾き／道路 (パイプライン／インフラ など) の損壊 →1点

(5) 3 点

降水量や流量の年変化が小さい a では内航水運の、その年変化が大きい d では南北を貫く運河の結節点として、それぞれ発展した。(2 行)

【加点ポイント】

- ① (a について) 内航水運の結節点/運河交通の要衝 となった →1 点
- ② (d について) 運河の結節点/黄河と長江の結ぶ運河の結節点 →1 点
- ③ (①②の背景) 降水量の年変化が a は小さく d は大きい
/ a は年間を通して降水に恵まれるが d は渇水の時期がある
/ a は年間を通して降水があるが d は冬季に乾燥する →1 点

設問 B

(1) 1 点 20° ~25° (※「°」の欠落 →不可)

(2) 3 点

集中豪雨によって土石流などの土砂災害が生じるおそれがあり、砂防堰堤を設置して被害の防止・軽減を図っている。(2 行)

【加点ポイント】

- ① (極端な気象現象) 集中豪雨/大雨 →1 点
- ② (自然災害) 土石流/土砂災害/山崩れ/地すべり →1 点
- ③ (②の防止のための措置) 砂防堰堤/砂防ダム/堰堤 →1 点

(3) 3 点

乏水地の扇央に位置する Q は畑に、河川の氾濫により形成され水が豊富に得られる S では水田に利用されている。扇端の崖下で湧水があり、かつ河川の崖上に位置する R では集落が立地している。(3 行)

【加点ポイント】(※「地形の特性」と「土地利用」の両方で 1 点)

- ① (Q は) 「乏水地/地下水面が深い」ので「畑」→1 点
- ② (R は) 「湧水が得られる/水利がよい/崖上である/氾濫原(後背湿地)より一段高い」
ので「集落/道路」→1 点
- ③ (S は) 「豊水地/水利がよい/湧水が得られる」ので「水田」→1 点

第2問 (20点)

設問A

(1) 2点

A－中国 B－アメリカ合衆国 C－サウジアラビア D－インド

※4個正解 →2点 1～3個正解 →1点 0個正解 →0点

(2) 3点

主にさとうきびを原料とするバイオエタノールの生産と、リオデジャネイロ沖を中心に開発される海底油田の原油生産量が増えた。(2行)

【加点ポイント】

- ① バイオエタノール →1点
- ② (①の原料として) さとうきび →1点
- ③ 海底油田／リオデジャネイロ沖の原油 →1点 (※「原油／石油」のみでは加点しない)

(3) 3点

半島の脊梁山脈が海岸に迫る地形に、大西洋の暖流から偏西風が吹きつけて降水量が多く、高低差を利用した水力発電が行われる。(2行)

【加点ポイント】

- ① 水力発電 →1点
- ② (①の背景) 降水量が多い →1点
- ③ (②の要因) 「暖流」と「偏西風」と「山脈／スカンディナヴィア山脈／地形性降雨」 →1点

(4) 4点 ※ [指定語句] 褐炭 脱原発 輸入拡大 3つ全て 下線付きで使用

段階的脱原発を進めるドイツは脱炭素化のため褐炭等の利用も減らすが、再生可能エネルギーの生産を急拡大させた。日本は事故後の再稼働が遅れる原発の欠損を主に化石燃料の輸入拡大で補った。(3行)

【加点ポイント】

- ① (日本やドイツは) 「原発事故／東日本大震災」の後「脱原発が進んだ／原発の稼働が減った」 →1点
 ↓
 どちらか一方で可
- ② (ドイツは) 褐炭の利用を減らしている／国内の褐炭による発電が減った →1点
- ③ (ドイツは) 再生可能エネルギーの生産を拡大させた
 ／風力・太陽光などの自然エネルギーの利用を推進した →1点
- ④ (日本は) 化石燃料 (原油／石炭／天然ガス) を輸入拡大した →1点

設問B

(1) 2点

ラトソルが風化作用を受けやすい北部の熱帯地域に偏在する。(1行)

【加点ポイント】

- ① (気候として) 熱帯 →1点
- ② (土壌として) ラトソルが分布する →1点

(2) 2点

国内市場が狭く他の大市場も遠いため、製造業の規模が小さい。(1行)

- ① (オーストラリアの特徴) 製造業の規模が小さい／製造業が発展しない →1点
- ② (①の背景) 国内市場が狭い／人口が少ない／他の大市場が遠い →1点

(3) 4点 ※ [指定語句]

アルミナ	安定	広大	石炭
------	----	----	----

 4つ全て 下線付きで使用

大量の電力を要するアルミナの電気分解には安価な電力が不可欠であり、オーストラリアは豊富な石炭の火力発電を利用してきた。脱炭素化が求められる今後は、広大で平坦な国土を活用した再生可能エネルギーへの転換を進め、電力価格を安定させる必要がある。(4行)

【加点ポイント】

- ① (アルミニウムの生産条件) アルミナの電気分解に大量の電力が必要
／アルミナからアルミニウムへの製造に大量の電力が必要 →1点
- ② (過去の生産) 石炭による火力発電による／供給が安定した石炭で火力発電 →1点
- ③ (今後の課題) 脱炭素化／広大な国土を利用した再生可能エネルギーの利用 →1点
- ④ (今後の課題) 電力価格の安定／安定した電力供給 →1点

第3問 (20点)

設問A

(1) 2点

A-フランス B-ドイツ C-ブルガリア D-デンマーク

※4個正解 →2点 1~3個正解 →1点 0個正解 →0点

(2) 3点

Xはイスラームである。Aは北アフリカの旧植民地から、Bはトルコから低賃金労働力として移民を多数受け入れた。(2行)

【加点ポイント】

① (Xの宗教) イスラーム/イスラム教 →1点

② (★(1)「A-フランス」の正解を加点の前提とする)

(Aは) 旧植民地/北アフリカ からの移民が多い →1点

③ (★(1)「B-ドイツ」の正解を加点の前提とする)

(Bは) トルコ からの移民が多い →1点

(3) 3点 ※ [指定語句] 統一 東欧 生産拠点 3つ全て 下線付きで使用

東西ドイツ統一やEU拡大を機に人件費の安い旧東ドイツや東欧に生産拠点を移す企業が増え、旧西ドイツで移民の雇用が減った。(2行)

【加点ポイント】(★(1)「B-ドイツ」の正解を加点の前提とする)

① (契機として)「東西ドイツ統一」と「EU拡大/東欧諸国のEU加盟」 →1点

② (①により) 東欧に生産拠点を移す企業が増えた →1点

③ (②の理由) 東欧は西ドイツより人件費が安い →1点

(4) 1点 (完答)

a-ベルギー b-スペイン c-スイス

(5) 2点

aとbは、言語の異なる民族間に対立がみられる。cと日本は、使用人口の少ないロマンシュ語、アイヌ語等の絶滅が危惧される。(2行)

【加点ポイント】

① (★(4)「a-ベルギー」と「b-スペイン」の正解を加点の前提とする)

(aとbについて) 言語の異なる民族間の対立 →1点

② (★(4)「c-スイス」の正解を加点の前提とする)

(cと日本について) 使用人口の少ない言語の絶滅

／ロマンシュ語 (レトロマン語) やアイヌ語の消滅 →1点

設問B

(1) 2点

アー② イー④ ウー③ エー①

※4個正解 →2点 1~3個正解 →1点 0個正解 →0点

(2) 3点

上位は都市に食肉、野菜、花卉、果実等を供給する集約的農業が主であり、下位は牧草地と畑の多い北海道以外は稲作中心である。(2行)

【加点ポイント】

(★1)「アー②」の正解を加点の前提とする)

- ① (上位の県は) 集約的農業が盛ん／園芸農業や畜産業が盛ん
／野菜の促成栽培や食肉生産が盛ん →2点
- ② (下位の県は) 稲作中心／米生産が盛ん →1点

(3) 4点 ※ [指定語句] 冬 焼酎・ビール 中山間地域 3つ全て 下線付きで使用

温暖な九州は二毛作に適し、夏に米を育てた農地で、冬は焼酎・ビールに加工する大麦や、飼料を育てられる。下位の県は中山間地域に過疎の農村が多く、福島県の農業は原発事故の影響も受けた。(3行)

【加点ポイント】

(★1)「イー④」の正解を加点の前提とする)

- ① (上位3県は) 二毛作ができる／夏作と冬作ができる／裏作が可能
／同じ耕地で夏と冬で異なる作物を育てる →1点
- ② (①の冬作の例として) 焼酎・ビールに加工する大麦／飼料／麦 →1点
- ③ (下位の県は) ・中山間地域が多い／山がちで平野が少ない／過疎の農村が多い →1点
・福島県は原発事故の影響を受けた
／福島県は原発事故で農地が汚染された
／福島県は原発事故の風評被害を受けた →1点